

# イギリスの教育心理士の養成と仕事

藤原正光\*

## The Training and Employment of Educational Psychologists in the UK

Masamitsu FUJUHARA

要旨：イギリスの教育心理学士の養成は、イングランド等とスコットランドとは多少異なっている。イングランド等では、大学で心理学を学んだ後（3年間）教職経験（2年以上）大学院修士課程（1年間）が一般的である。チューター資格取得は、就職後1年間のトレーニングを通して付与される。スコットランドの異なる点は、大学院修士課程は2年間であり、教職経験を必要としていない点である。

教育心理士の仕事は、2つの地域に差はない。中心となる業務は、特別支援を必要としている子どもたちをアセスメントによって見出し、ステイトメント（statement）を作成し、学校や教師の支援をサポートすることである。

イギリスでは、約20%の児童生徒が特別支援を必要としており、その内の85%は通常学級（mainstream）で学習している。インクルージョンが、ごく普通の制度になっている。

キーワード：教育心理学士 インクルージョン 特別支援教育 ステイトメント チューター資格

### はじめに

2005年2月27日から3月7日まで、日本学校心理士会主催の第6回学校心理士英国研修に参加し、スコットランド・グラスゴーのストラスクライド大学（Univ. of Strathclyde）とイングランド・ノッティンガム大学（Univ. of Nottingham）およびノッティンガム郊外の中等学校（The Long Eaton School）で得た講演資料をもとに作成した。

教育心理士（educational psychologist）の養成制度は、イングランド、ウェールズ、北アイルランドはほぼ同じであり、大学院修士課程の1年間で養成されるのに対し、スコットランドでは、2年間の修士課程で養成されている。

イギリスで最初の教育心理士として仕事を

始めたのは、1913年、シビル・バート（ロンドン市教育委員会）であった。彼が上司に「ここでどんな仕事をしたらよいか」尋ねたところ、上司は高いビルの事務所の窓際に彼を連れて行き、「下を見てみなさい。ロンドンにはたくさんの無知の人や貧民がいる。心理学を使って彼らを助けるように……」と言われた。当時、一人であったイギリスの教育心理士は、92年後の現在では、約3,000名となっている。

教育心理士の仕事は、イギリス全土でほぼ同じである。本稿では、スコットランドとイングランドの事例を紹介しながらその職務について考える。

また、イギリスでは、軽度の障害を抱えている子どもたちは通常学級で普通の子どもたち（健常児童・生徒）と一緒に学習するインクルージョン（inclusion）制度が浸透している。イングランド・ノッティンガムの中等学校の事例を紹介しながら、教育心理士が学

\* ふじはら まさみつ 文教大学教育学部心理教育課程

校で果たす役割について考察する。

## 1. 教育心理士の養成

### 1) 教育心理士の基本的資格

イングランド、ウェールズ、北アイルランドの教育心理士養成は、前提として、大学の学部でイギリス心理学会（British Psychological Society：BPS）が認定している心理学領域の教科を3年間学習する必要がある。学部卒業後、次のようなトレーニングを受けなければならない。

#### <学部卒業後のトレーニング>

- \* 教育実習（1年間）：教師資格の取得
- \* 教職経験（2年以上）：4歳児から18歳の児童生徒対象のどの校種でもよい
- \* 大学院・修士課程でのトレーニング（1年間）：BPSが指定した大学院（現在13大学）で指定された教科を修得
- \* チューター資格（tutor status）の修得：修士課程修了後、1年間、各心理学的サービス機関（日本では教育委員会内に設置）でスーパービジョンを受けてこの資格を修得する。これは義務ではないが、教育心理士の1/2～3/4が取得している。

イギリスには約150の心理学的サービス機関がある。教育心理士の資格を修得した学生は、修士課程修了と同時に、希望者全員がいずれかの機関に就職している。

このように、教育心理士の養成期間は大学卒業後5年間を要する。現在、それぞれの養成段階でトレーニングに重複する部分がある、教育心理士の資質をさらに向上させる必要がある等の理由で、大学院での養成を3年間とし大学院博士課程に改組する案が検討されている。

スコットランドの教育心理士の養成は、ストラスクライド大学とダンディー大学（Univ. of Dundee）の大学院修士課程（2年間）で行われ、前者は27単位、後者の大学は24単位の

修得が義務付けられている。また、イングランド等で求められている教職経験は求められていない。しかし、実際には教育心理士の40%が教師の経験がある。残り60%も、何らかの形で子どもと関わった経験がある。

### 2) 大学院・修士課程での養成

教育心理士養成には、英国心理学会（BPS）の倫理規定に基づいたトレーニングやコア・カリキュラムに従うことが求められている。簡単に説明すると、以下の通りである。

#### <英国心理学会の教育心理士倫理規定>

- \* 基本的な職業能力：研究成果の利用、ステイトメント（statement）作成能力など
- \* 基本的な職業実践能力：教育心理士に求められる能力であり、心理アセスメントや面接技法などの知識や技法
- \* 教育心理学などの応用能力：諸研究の理解・評価、学校現場で応用できる能力
- \* 評価や研究結果の応用能力：研究する能力や子どもへの支援方針立案者へのアドバイスなどの幅広い能力
- \* 効果的なコミュニケーション能力：グループ活動やカウンセリングで求められる冷静なコミュニケーション能力
- \* サービスの提供：自分の時間・労力などを考えながら、すべての人に公平なサービスを提供できる「バランスの取れた能力」

### 3) 大学院・修士課程（1年間）のトレーニング・プラン

イングランドやウェールズ等の大学院での養成は、9月から翌年の8月までの1年間である。学生は、宿題（課題）、実習（field work）、研究の3つの側面から評価される。

また、コア・カリキュラムはBPSで決めているが、実際には、各大学の実情に合わせて実施されている。しかし、BPSは、大学の教員スタッフや科目の実施状況、現場実習でのトレーニングの実態などを5年ごとにチェックしている。

年間のトレーニング・プランを概略すると、次のようになる。

<年間のトレーニング・プラン>

9月：3週間のオリエンテーション.....

1年間がいくつかのunitに分かれており、それに合わせてプログラムが設定されている。この期間の目的は、グループで活動できる学習環境を作ることである。

10月～12月：集中的な講義。1週間に1度の現場実習（field work）がある。

1月～3月：週に2日は大学、3日は実習。

イースター・ブレイクの後、研究プロジェクトに入る。

5月～6月：2回目の集中的な実習（今年度は週5日間のfield work）

6月末～7月：週1日が2日は大学で講義・スーパービジョン。

修了試験

7月末：教育心理士養成プロジェクトは修了。残りの期間（8月にかけて）：研究レポートのまとめ

<スコットランドの養成プログラム>

スコットランドの大学院での教育心理士の養成は2年間であり、1年を3つに分け、それぞれ10週間の授業プログラムで実施している。

\* 大学での授業は、月曜日と火曜日の2日間が基本である。

\* 水曜日は、自己学習日であり、復習や課題の学習に当てられている。

\* 木曜日と金曜日は、心理的サービス機関（教育委員会等）での現場実習である。

授業は、大学のチューター（tutor）や心理的サービス機関で中心的な役割を演じている非常勤の大学教員によって実施されている。また、セミナー（seminars）やワークショップ

（workshops）などの授業では、心理学の理論とともに教育心理士の職業実践に関するトピックスが提供されている。

4) 大学院・修士課程の1週間のトレーニング・プラン（イングランド等）

<秋学期のtime-tableのコメント>

月曜日：FWA（現場実習）

火曜日（午前）：研究法の講義、読み・書きの困難児への支援の講義

（午後）：private study（自習）

水曜日（午前、8.30am-10am）：core tutor meeting（スタッフ・ミーティング）.....

学生の勉強の進み具合・実習の問題・スタッフの問題等さまざま。

スタッフは、大学では非常勤であり、その他の時間は教育委員会で教育心理士として勤務。大学と教育委員会との勤務比率はスタッフ個人により異なる。

ミーティングは、大学での授業のような共同作業にとって極めて大切である。

Shepherd School Placement（養護学校実習）：養護学校での実習は初めての経験であり、非常に有意義である。

Tutorial（個別指導）：実習に出かけない週は個別指導を受ける.....内容は、講義の内容や実習中の体験等の確認

学生の成長は、「知識により技術がみがかれ、自信もつく。」、何より大切なことは、客観的な自己理解が深まることである。

（午後）：professional issues（職業人としての学習）：教育心理士としての実務の理解.....ステイトメントの記入方法やその他の事務処理について

木曜日（午前）：problem solving and assessment- Part（問題解決とアセスメント）：心理検査も学習するが、それよりも大切なことは、子どもや保護者をどのように理解するかである。非常に幅広い問題を含んでいる。

アセスメントの考え方に大きな変化が見られる。アセスメントとは、心理検査で

表 学生の一週間のタイム・テーブル

Autumn ( 秋学期 )

	am 9:30am - 12:30pm	pm 2pm - 5pm	
<b>Monday</b>	FWA ( 実習 )	FWA ( 実習 )	
<b>Tuesday</b>	Literacy Difficulties ( 読み・書き困難児への支援 ) AM Research Methods ( 研究法 ) AM	Private study ( 自習 )	
<b>Wednesday</b>	Core tutor meeting ( スタッフ・ミーティング ) 8:30am - 10am	Shepherd school placement ( 養護学校での研修 ) NR Tutorials( 個別指導 )	Professional Issues ( 職業人としての学習 ) Note: 1.30pm - 4.30pm SD
<b>Thursday</b>	Problem Solving and Assessment: Part ( 問題解決とアセスメント ) NR	Course Business ( コース・Meeting ミーティング ) 12.30pm - 1pm	Strategic Psychology in Schools ( 学校の組織心理学 ) AG
<b>Friday</b>	Problem Solving and Assessment: Part ( 問題解決とアセスメント ) AG	The Education of Children Sever & Complex Needs NR ( 重度障害児の教育 )	

Spring ( 春学期 )

	am 9:30am - 12:30pm	pm 2pm - 5pm	
<b>Monday</b>	FWA ( 実習 )	FWA ( 実習 )	
<b>Tuesday</b>	FWA ( 実習 )	FWA ( 実習 )	
<b>Wednesday</b>	Core tutor meeting ( スタッフ・ミーティング ) 8:30am - 10am	Tutorials( 個別指導 )	Strategic Working to promote Inclusion in LEAs ( 効果的なインクルージョンのあり方 ) AR
<b>Thursday</b>	Problem Solving and Assessment: Part ( 問題解決とアセスメント ) NR	Course Business ( コース・Meeting ミーティング ) 12.30pm - 1pm	Vulnerable Young People Part : the Family & Community Context ( 傷つきやすい青少年への支援 ) AR NR
<b>Friday</b>		FWA ( 実習 )	

「分けること」から、子どもにとって「本当に大切なことは何か」を追求すること、と解釈されるようになった。

course business meeting (コース・ミーティング)

(午後) : Strategic psychology in school (学校の組織心理学) : 学校や教育委員会の組織が、子どものニーズに合わせて、どのように変化するのかを学習する。

金曜日 (午前) : Problem solving and assessment-part (問題解決とアセスメント)

(午後) : The education of children sever complex needs (重度障害児の教育) : 重度の視聴覚障害、自閉症、学習障害の子どもたちについての学習……障害児に関する基本的知識の理解や子どもの発達に関する理解。その他、障害児への支援方法や政策についても学習する。

<春学期のtime tableのコメント>

秋学期と異なる部分について概説する。

水曜日 (午後) : Strategic working to promote inclusion in LEAs (効果的なinclusion制度のあり方) : 社会的、教育的、政治的背景や課題についての学習。すべての子どもたちが、main stream (健常児と一緒に普通のクラスで) で学ぶべきであるというのが政府の方針。……約10年前からこの方向が確認され、カナダから先進的な情報を得ながら教育心理学士のトレーニングを行っている。

ノッティンガム大学は、イギリスの中でinclusion研究が最も進んでいる大学である。従来、教育心理学士は、多くのテストを用い、子どもたちを区分することが中心であった。現在では、幅広い心理学の知識を用い、inclusion制度を推進している。

木曜日 (午前、午後) : Vulnerable young people: part -trouble and challenging, Vulnerable young people: part -the family & communication : (傷つきやすい青少年への支援 part , part ) : 傷つき・反抗的になって問題行動を起こした子どもたちを、

学校でどのように支援するかについての授業である。

午後は、家族やコミュニティーの文脈の中での支援について学習。

政府の方針は、青少年の問題(例えば子殺し)を教師・警察・ソーシャルワーカー・医療機関などが一体となって支援することが求められている。教育心理学士は、この統合されたサービス(支援体制)のリーダーになることを期待されている。

(昼 12.30-1pm) : Course business meeting (コース・ミーティング) : 教職員と学生の合同ミーティング。

学生が司会を行ない、コースの事務的な問題やカリキュラム運営上の問題等について話し合う。同時に、効果的な議事運営とは何かについて学ぶ。

注 : フィールド・ワーク(現場実習)について

ノッティンガムにはいくつかの学区があるが、現在、2つの学区の心理的サービス機関で実習を行っている。

実習中のスーパーバイザーは、現場のtutored psychologist (チューターの資格を持った教育心理学士)が行っている。彼らに対して、大学の教員がスーパーバイズすることもある。

学生は大学でしっかり学んでいるが、実習先で、地域で必要とされる知識や技能を身に着けることが非常に大切である。

## 2. 教育心理士の仕事

1970年台以来、「教育心理学士は、学校・学級の中で、家庭や地域社会の中で、子どもたちの学習や社会的に望ましい行動を引き起こすために実に効果的な支援をしている。」とする認識が浸透してきた。このことにより、教育心理学士への期待が一層高まってきた。スコットランド・グラスゴー市を例にとって説明する。

この市の心理学的サービス機関は、スコッ

トランドで最大である。教育心理士は、現在54名であり、就学前教育施設（pre-school）から小学校、中等学校、養護学校など、計385校に通うすべての子どもたち約19.3万人を支援の対象としている。また、教師や保護者に対してさまざまなアドバイスを行い、「特別支援を必要とする児童生徒」にレコード（statementと同じ意味、証明書）を作成し、行政からの支援を仰ぐ手助けをしている。

#### 1) 教育心理士の中心的な仕事

子どもたち（0歳～19歳まで）のうち、約10%が何らかの心理学的サービスを受けている。教育心理士1人当たりの受け持つケースは年間140～180件であり、毎年約2,000名の支援対象者を見つけ出している。その内、特別支援を必要と認定し、レコード（statement）を作成するのは約270名である。非常に多忙であるといえる。

おもな心理学的サービスを、次のようにまとめた。

##### <教育心理士の中心的な仕事>

\* アセスメント（assessment）：知能や性格テストなどの標準化されたテストを実施するだけでなく、子どものすべての面からの評価が求められている。

例えば、生育歴、認知発達の測定、学習スタイル、動機付け、社会的知識、家庭的背景、学校や学級への適応、特別支援教育に関する知識や指導技術など。また、特別支援を申請する書類作成（statement）の作成は、教育心理士に課せられた法的な義務である。

\* コンサルタントとアドバイス（consultant and advice）：学校や教育行政へのコンサルタントや子どもの支援に直接関わっている教師や保護者へのアドバイス。

教育心理学の知識を用いて効果的な授業法の技法やADHA（注意欠陥多動障害）、LD（学習障害）、ASD（高機能自閉症）、AD（聴覚障害）などの知識や支援方法の指

導などがある。

\* 介入（intervention）：担任教師（classroom teacher）や保護者や問題を抱えている子どもへの直接介入。

一般的には、学級を直接視察し、子どもの支援に直接介入することはないが、特に問題になっているケースについては、アセスメントを行った後でソーシャルワーカーと一緒に家庭訪問をしたり、担任教師に直接アドバイスする場合もある。

\* スタッフの能力開発（staff development）：各種の学校を訪問し、インクルージョン（inclusion）の問題点をアドバイスするとともに、生徒指導部（student support department）の教師たちの知識や技能の開発に努めている。

さらに、教育心理士どうしてケースカンファレンスや研究会を開き、能力の開発に努めている。

\* 研究や開発的な仕事（research and developmental work）：子どもの学業成績や成長、特別支援、アセスメントなどに関する研究レポートを作成。このことは、教育心理士の研究能力を開発することでもある。

また、生徒やスタッフから仕事への評価をしてもらい、自己改善を図っている。

#### 2) スコットランドの特別支援教育

イングランド等と同じように、スコットランドの公立学校ではさまざまな障害を抱えている子どもたちが健常児童・生徒と一緒に通常学級で学んでいる。教育心理士は、このインクルージョン制度において、レコード（statement）の作成、担当教師に効果的なアドバイスなど、中心的な役割を果たしている。

中等学校を例にとると、生徒の約20%が「特別支援が必要である」と判断され、3%の生徒が「個別の特別支援教育」のレコードを持っている。障害を抱えている約85%の生徒が通常学級で学んでいる。

< Special Needs（特別支援）が必要とされる

生徒の障害の種類>

- \* Specific learning difficulties (27%) : 重度の学習障害
- \* Moderate learning difficulties (22%) : 中程度の学習障害
- \* Social and economical difficulties (11%) : 社会・経済的困難な生徒
- \* Autism spectrum disorder (9%) : 自閉症
- \* Sensory impairment (4%) : 視聴覚障害
- \* Physical and motor impairment (4%) : 肢体不自由
- \* Speech and language disorder (8%) : 言語障害

2004年に、特別支援教育に関する政策に変更があった。1980年代以来、special educational needs (特別教育ニーズ) という言葉が使われてきたが、2004年から additional support needs (付加的支援ニーズ) という用語に変わった。

その意味は、子どもへの支援を結果に基づく評価から行うべきである、との考え方に基づいている。例えば、2年生までの支援の結果の評価に基づき、3年生ではどのような支援を付加したらよいのか、といった意味である。「結果に基づく支援」を重視すると解釈すべきであろう。

### 3. インクルージョン (inclusion) での教育心理士の役割 ~ The Long Eaton School の実践例 ~

この学校は1984年に開設され、上級学校への進学率も非常に高く、政府からさまざまな形で支援を受け、実践結果はイギリス国内に広く紹介されている。

この学校には Student Support Department (生徒指導部) が置かれており、すべての生徒を対象に支援が行われている。また、特別な支援を必要とする生徒を見つけ出し、必要な支援を行うこともこの部署の任務となっている。それぞれのクラスには支援教諭 (support

teacher) が配属されている。以下、この部署のおもな内容について概説する。

#### 1) 学校の生徒支援方針

< School Provision (student support departmentの生徒支援方針) >

- \* Curriculum in class support (クラス全体の支援カリキュラム)
- \* Specialist one to one work (専門家による1対1の支援)
  - literacy programs (読み書きのプログラム)
  - language & communication programs (言語・コミュニケーション問題のプログラム)
  - emotional & behavioral programs (情緒・行動問題のプログラム)
  - mentoring programs (新入生向けのプログラム)
  - sensory & physical programs (視聴覚・身体的問題のプログラム)
- \* student support centre ---attendance (behavioral, emotional) 不登校支援 (行動問題や情緒的問題で不登校に陥っている生徒への支援)
- \* KS4 work related learning キーとなる5教科 (英語, 数学, 科学, 職業, 歴史) + 労働と結びついたプログラム (例 育児, エンジニアリング)

それぞれのクラスには10人前後の特別支援を必要とする生徒が所属している。教科によっては、1対1の個別特別支援が行われている。この支援は、専門の教師 (special teacher) の場合もあるし、クラス担任 (home teacher) の場合もある。

生徒指導部の基本方針は、「行動問題や情緒的問題で不登校に陥っている生徒をどのように支援するかである。決して、罰を与えることではない。」となっている。

KS4というプログラムは、14歳~16歳の生徒に対し、上記の主要5教科に加えて職業と関連した (例えば、育児やエンジニアリング) 教科を週1回の割合で実施するプログラムで

ある。

## 2) 付加的な特別支援を必要とする生徒

< Students with Additional Needs (付加的な特別支援を必要とする生徒) >

- \* Statements (教育心理士による認定) : 38名
- sensory (視聴覚障害) 2名
- behavior (行動障害) 2名
- language & communication (言語・コミュニケーション障害) 6名
- cognition & learning (認知・学習障害) 19名
- specific learning difficulty (特異な学習障害) 9名
- \* Action Plus 22名 : sever learning difficulty (重度な学習困難の生徒)
- \* Action 78名 : mostly emotional behavior disorder (情緒的行動障害)  
mild learning difficulty (軽度の学習困難な生徒)

Register Total (合計) 138名 (LES NOR : 1200名)

The Long Eaton Schoolの生徒の構成は、全校生徒約1,200名のうち、特別な支援を必要とする生徒138名である。支援を必要とする生徒の占める割合は11.5%である。

Statementsとは、教育心理士によって特別支援が必要であると認定された者で、政府によるさまざまな教育支援が受けられる。

Action Plusは、所属している学校以外の教育機関から、さまざまな教育支援を受けることができる。

## 3) 生徒へのサービス提供機関

< Agencies (サービス提供機関) >

- \* Social Services (社会福祉サービス)
- \* Child & Mental Health (精神衛生サービス)
- \* Emotional Social Worker (情緒的障害を扱うソーシャルワーカー)
- \* Youth Offending Team (青少年犯罪防止チ

ーム)

- \* Behavior Support Service (行動問題支援サービス)
- \* Relate-Safe Speak Counseling (家庭問題のカウンセリング)
- \* Breakout - Drug Counseling (薬物問題のカウンセリング)
- \* Step up 2000
- \* Connections (職業支援サービス)
- \* School Health (保健サービス)

この部署では、生徒一人ひとりの問題について教育心理士を交えて(医者が参加する場合もある)複数のスタッフと定期的(2週間に一度)にミーティングを行なっている。しかし、スタッフ全体のミーティングは難しい。

Relate-Safe Speak Counselingとは、両親の離婚や家庭内の問題など、さまざまな家庭内の問題を抱えている生徒へのカウンセリング支援である。

Step up 2000とは、孤児院などの養護施設の生徒への支援であり、ソーシャルワーカーと一緒に活動している。

School Healthは、養護の先生(学校看護師さん)のサービスであり、外部派遣の形をとっている。

## 4) 教育心理士のサービス

< Educational Psychology Service (教育心理士のサービス) >

- \* Allocated 30 hours per year (年30時間勤務の割り当て)
- \* Monthly visits meeting SENCO,SSC (月1回の学校訪問)
- \* Manager & Other Agency (管理とその他のサービス業務)
- Assessments on students with statements (ステイトメント作成のためのアセスメント)
- Meet Parents (親との面談)
- In service training (スタッフへの生徒支援のトレーニング)
- Observation (教室での生徒観察)



- ・ Facilitate Staff Strategy meeting ( スタッフ・ミーティングへの支援 )
- ・ Primary, Secondary transition ( 初等から中等学校への進級時の支援 )
- ・ One to one work with students ( 生徒との1対1の面談 )

教育心理士は、年30時間、月1回4時間学校を訪問し、2人の特別教員 ( special teacher : SENCO, SSC ) との相談に当たっている。生徒に会うのは、一般的には、アセスメントの時だけであるが ( 特別の支援が必要とする生徒への支援は除く )、教室での観察を通してさまざまなアドバイスをしている。

In service training では、生徒の自尊心を高めるためのプログラムやロール・プレイや音楽療法などの支援を行っている。特定のプログラムに対して能力的に不十分な場合は、別の教育心理士が代わりに支援してくれる組織になっている。

例えば、ロール・プレイでは、声の出し方や顔の表情の作り方などの指導に演劇の先生をお願いしている。これは生徒に非常に好評であり、5年前から継続している。

インクリュージョンと授業との関連についての質問に対して、「9年前までは、障害を抱えた生徒も通常学級で健常な生徒と一緒に、同じ授業を受けていた。現在では、教科により一斉授業形式の場合も能力別クラス編成の場合もある。能力別クラスの場合は特別の専門教師 ( special teacher ) が支援にあっている。また、重度の学習困難な生徒に対しては、教師と生徒の1対1支援が行われている。」との説明があった。

教育心理士が、直接生徒に支援することはない。全校で20名いる担任教師にアドバイスする形をとっている。

担任するクラスのサイズは、5,6名～30名と幅がある。平均人数は約20名である。

## 結 語

本稿では、イギリスの教育心理士養成と中心的な仕事について論じた。わが国の現状を、紙面の許す限り考えてみよう。

1994年に「スクールカウンセラー活用調査研究委託事業」が始まり、2000年に「2001年度から5年間で全国の公立中学校にスクールカウンセラー ( 以下SCと略 ) を配置する」宣言があり、順調に滑り出すかに見えたSC制度であるが、現実には、さまざまな問題が山積している。

SCの養成はスコットランドと同じ大学院修士課程 2年間 であり、修了後、臨床心理士試験に合格しなければならない。資格として、教職経験は求められていない。

大きな違いは、身分が教育委員会所属の非常勤職員であり、業務内容が不明確であり、資格取得後の組織的な研修機関が設定されていない点である。今後の発展を期待したい。

## < 謝辞 >

第6回日本学校心理士会・英国研修の通訳は、石隈利紀氏 ( 筑波大学 ) と今田里香氏 ( 信州大学 ) であった。本稿の作成にあたり、両氏が通訳された部分を引用した。記して感謝の意を表します。

## 参考資料

- Boyle, Jim, Training of Educational Psychologist in Scotland, 2004.3, ( Univ. of Strathclyde での講演 )
- Miller, Andy, On Aspects of Educational Psychologist in the UK, 2004.3, ( Univ. of Nottingham での講演 )
- Spurr, Helen, Student Support Department in The Long Eaton School, 2004.3 ( The Long Eaton School での講演 )
- Reynolds Sue, Educational Psychologist in Glasgow, ( Univ. of Strathclyde での講演 )